

# Rohm Music Friends<sup>♯</sup>

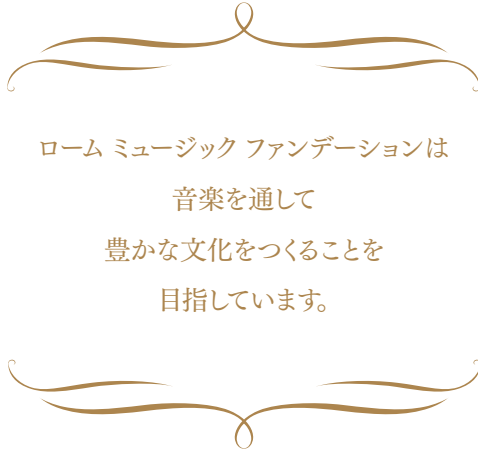
ローム ミュージック フレンズ

2024.3 | No.17

—ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌—



フレデリック・チャイルド・ハッサム [Improvisation] 1899年  
© Bridgeman Images / amanaimages



ローム ミュージック ファンデーションは  
音楽を通して  
豊かな文化をつくることを  
目指しています。



# Rohm Music Friends

No.17  
2024.3

## 目次

- P03 活躍する奨学生 インタビュー
- P07 ローム ミュージック フェスティバル2023 in Tokyo
- P09 Ken Sato Memorial Concert
- P13 ピアノ寄贈事業
- P14 ROHM MUSIC FOUNDATION  
30<sup>TH</sup> ANNIVERSARY PROJECT Vol.3
- P15 Kyoto×Classics
- P16 ローム クラシック スペシャル  
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室  
コバケンワールド
- P18 ローム ミュージック フレンズからのお便り
- P22 ロームシアター京都 ミュージックサロン
- P23 奨学生一覧・先輩からのメッセージ

### 「ローム ミュージック フレンズ」とは

1991年の創立以来、若い音楽家育成のためのさまざまな事業で関わった音楽家。  
2024年2月現在 計4,865人  
※複数の事業で関わった音楽家がいるため、各事業の人数合計とは一致しない。

奨学生	国内外の教育機関で音楽を学ぶ学生への奨学金の給付。	540人
音楽在外研究生	音楽家の一層の研鑽を図るための在外研究を援助。	64人
ミュージックセミナー受講生	ローム ミュージック フレンズが講師となり、 世界を舞台に活躍する音楽家の育成を目的としたセミナー。	11人
音楽セミナー受講生	プロの音楽家の育成を目的としたセミナー。 現在までに弦楽器クラス、管楽器クラス、指揮者クラスを実施。	333人
京都・国際音楽学生フェスティバル出演者	国際交流と音楽家の育成を目的として、世界を代表する音楽学校から 音楽学生を京都に招いて開催するフェスティバル。	2,646人
小澤征爾音楽塾 塾生	オペラやオーケストラを通じて若手音楽家を育成するプロジェクト。	1,530人



# 活躍する 奨学生 インタビュー

VOL.17

Seiya Ueno

上野 星矢 [フルート]

2011~2013年度奨学生

給付時の在籍学校:  
パリ国立高等音楽院  
ミュンヘン音楽大学



## Profile

2008年、東京藝術大学音楽学部フルート専攻入学。同年、世界的フルート奏者の登竜門である「第8回ジャン=ピエール・ランパル国際フルートコンクール」で優勝。杉並区文化功労賞受賞。2009年、パリ国立高等音楽院に審査員満場一致で入学。2012年同音楽院第一課程卒業。2014年、ミュンヘン音楽大学大学院卒業。2014年、New York Young Concert Artist にて最優秀受賞。2015年秋には全8か所のアメリカツアーを成功させ、ケネディセンターでのリサイタル、最終公演はニューヨーク・カーネギーホールでリサイタルデビューを果たす。2019年より大阪音楽大学准教授。現在は世界を舞台に、ソロリサイタルやオーケストラとの協演などの演奏活動の他、音楽教室経営、国際講習会開催等、あらゆる分野にて活躍中。2023年秋に行われた第77回ジュネーブ国際音楽コンクールフルート部門にて審査員を務める。これまでに日本コロムビアレコード、Laplace Record より7枚のCDをリリース。第25回青山音楽賞新人賞受賞、第17回ホテルオークラ音楽賞受賞。東京バロックプレイヤーズ、The Sixth Sense、Duo Nostalgia メンバー。

— はじめに、音楽を始められたきっかけを教えてください。

ぼくの通っていた杉並第二小学校は4年生から部活動に入ることができたのですが、ちょうどその年に他校から非常に有名な指導者である「原悠三先生」という方が転任されてきました。

先生の指導される姿を見たとき、子供ながらに音楽の迫力や、練習に向き合う集中力に衝撃を受けて、音楽に対する情熱を感じ入部したのが音楽を始められたきっかけです。

父が昔、少しフルートを吹いていたことがあり、自宅にランパルのCDがあったことなどから、演奏する楽器はフルートを選びました。ただその当時は「絶対にフルートを吹きたい」という思いはありませんでした。

— 個人レッスンにはいつごろから通われていたのでしょうか。

小学校6年生のときに、恩師である原先生が癌で亡くなられたんです。その少し前、病室の原先生からお電話があり、「君は音楽家になる素質があるから、絶対に音楽を続けて世界を舞台に活躍してね」という風な言葉をいただきました。

それがきっかけでプロを目指そうと決心し、個人レッスンに通うようになりましたね。

— 中学卒業後、都立総合芸術高校に進学されました。他にも音楽高校がある中で、都立総合芸術高校を選ばれた理由は何だったのでしょうか。

いろいろな理由があったのですが、まずは制服が無いことでした。今もそうですが、学生のころ



は特に「自由」に対する執着があって、何かに制約されていたり、コントロールされていたりする環境に身を置きたくないと思っていました。都立総合芸術高校（以下、都芸）は母が勤めていたこともあって自由な校風だと分かっており、かつ制服も無いということで進学を決めました。

また、個人的に他の音楽高校の皆さんはコンクールをたくさん受けているというイメージがあったのですが、ぼくはクラスメイトと競争しなかったため、都芸を選びました。実際に高校へ入学してみたらクラスメイトもたくさんコンクールを受けていたのですが、ガツガツした雰囲気ではなかったので自分には合っていましたね。本当に自由な3年間でした。

— その後、東京藝術大学に進学し、大学2年生のときに留学されました。

大学1年生のときにジャン=ピエール・ランパル国際フルートコンクールで優勝し、いろいろな先生に「コンセルヴァトワールで学ばないか」と誘っていただきました。当時、パリ国立高等音楽院助教でパリ管弦楽団首席奏者であったヴァンサン・リュカ先生のレッスンを何度か受けたことがあり、この先生を目指したいと思ったため、パリへの留学を決めました。

パリで3年間勉強した後、先生方と「パリで大学院に進むか、国を変えるか」というお話をしたとき、「今までと異なるアプローチをしてみたいなら別の場所に行ってみても良いんじゃない？ 合わなかったら帰っておいで」と



フルート  
合宿



言っていたが、ミュンヘンへ留学場所を移しアンドレア・リーバークネヒト先生に師事することとなりました。

パリで学んでいたときは、日本で身に付けた自身の奏法の答え合わせができていたという感覚があり、カチッとハマっていました。ただミュンヘンに移ってからは、今まで築き上げてきたものを一度壊して作り直していくという形だったので、非常に勇気のいることでした。アンドレア・リーバークネヒト先生は厳しい方だったので精神的にも辛い部分が当時はたくさんありましたが、最近になって、そのころ学んだことの意味に気付くことが多くなってきましたね。

— パリとミュンヘンに留学されていたころ、ローム ミュージック ファンデーションの奨学生でした。その当時の印象深いエピソードはありますか。

国際コンクールを受けるために、たくさんの国を訪れましたね。北京に到着した瞬間に携帯をなくしてしまったり、激安航空でポーランドに移動したり、いろいろなことがありました。

パリに留学していたころ、毎年同じようなニューイヤーパーティーはもう飽きてしまったので、別の場所で新年を迎えようと思い、スロベニアのブレッドレイクという場所に一人で行ったことがありましたね。街中にアジア人はぼく一人、知り合いは誰もいない地域でしたが、スロベニア国内に住むフルーティストの友人を呼んで、2人で現地の日本語学校を訪ねてみたんです。そうしたら日本語学校の方は非常に驚かれましたが、すぐ仲良くなって、冬休み中ずっと彼らと遊んでいたことを覚えています。そのときも、新年のカウントダ



リーダーをしている六重奏団  
The Sixth Senseのメンバーと



ジュネーブ国際コンクール  
で審査員をした際の1枚

ウンの最中に、携帯をなくしたことに気付くという、そんなハプニング付きでした(笑)。

— 日本に戻られてからはソリストとして第一線で活躍しながら、後進の指導もなさっています。指導を始められたきっかけなどは教えてください。

ミュンヘンから日本に戻ってきたころ、ジストニアの症状などもあり、演奏の調子があまり良くなかったんです。そうしたなかで、生徒さんと一緒にもう一度自分のフォームを見つめ直すという気持ちもあり、指導を始めました。

演奏者としてステージに立っているときは客席がすべて見えるわけでは無く、音楽を介して同じ時間を過ごしているという感覚が直接的ではないんですね。それに対してレッスンは人と人とのエネルギーの交換が音楽を通して直接的に行われている感覚なので、その点が好きなんです。もともと小学生のころから後輩に教えたりするなかで、自分が説明したり教えたりすることで周りの人が上手になっていくことが嬉しいという気持ちを持っていて、それが今につながっていると感じています。

— 普段のレッスンに加え、夏と冬にはミュージックキャンプを開催し、また大阪音楽大学では准教授として指導にあたられています。学生さんと関わる機会の多い上野さんが、学生のうちにチャレンジしておいた方が良く思うことはありますか。

やはりたくさん練習することと、たくさん友達をつくることだと思います。友達が多ければ多いほど、自分より上手い人、さらに先のレベルの方々が出てくるんです。そういう人が周りにいると自分も頑張ろうと思えるし、刺激になるんですね。(上野さんが主宰されている)いま取り組んでいる企画はすべて、仲間を増やすということが目的の一つになっています。

— 上野さんをご自身でさまざまな企画を主宰されていますが、何が上野さんの原動力となっているのでしょうか。

なぜぼくたちの上の世代は画期的なことに取り組んでこなかったんだろう、という怒りじみたものに駆り立てられているのかもしれない。時代的な部分もあるとは思いますが…。日本が経済的に潤っていた時代で、伝説的なプレイヤーと呼ばれる人たちに近い世代の方は、やはり時代に彩られていた部分が大きいです。ただ時代は移り変わりますし、もしかしたらプロになることも難しい時代かも知れない。そんななかで、プロになれるかどうかではなく、それ以前に音楽が人生において大切に、音楽の意義のようなものを、さまざまな世代、立場の方が感じられる機会をつくらせていきたいと思っています。

— 既に多種多様な企画を主宰されている上野さんですが、今後、取り組んでみたいことなどがあれば教えてください。

ぼくが主宰しているフェスティバルではフルートオーケストラを年に2回開催しているの



ですが、それを常設団体にしたいと考えています。自分を中心とした巨大なサークルを全国につくって同じ曲を練習したり、ぼくのコネクションで協力してくれる外国の奏者と一緒に指導したり、といったことに取り組んでみたいですね。

またThe Sixth Sense (上野さんがリーダーをしている六重奏グループ) が主催している室内楽コンクールをより多くの方に知っていただきたいと思っています。

つまるところ、ぼくが挑戦したいことは、新しく音楽を始める人を増やしたいということや、楽器を演奏する人たちに日常の中に小さな目標をつくってほしいということに結びついていると思います。もちろんコンサートやリサイタルなどにも取り組んでいきたいですが、それ以外にも人にモチベーションをプレゼントできることを続けていきたいです。

やはり人と関わることでしか人間は成長できないと思いますし、他の方のエネルギーを借りながら一緒に成長していけたらと思っています。



フルートセレブレーション

# ROHM MUSIC FESTIVAL

ローム ミュージック フェスティバル  
2023 in TOKYO

## ブラームス、そしてその楽友たち ～シューマンとドヴォルザーク

2023.  
10/14 [土] 紀尾井ホール  
16:00開演 (15:15開場)



2023年10月14日(土)に「ローム ミュージック フェスティバル 2023 in TOKYO」を開催しました。ローム ミュージック フェスティバルは、奨学援助などで支援した音楽家「ローム ミュージック フレンズ」が一堂に会す音楽祭で、音楽ファンの拡大をはかることを目的に2016年よりロームシアター京都にて開催しています。2021年からはより多くの方にクラシック音楽をお楽しみいただけるよう東京公演を開始しました。今回は、国際コンクール優勝者など、玉井菜採さん率いる国内外で活躍されている5名の演奏者による室内楽をお届けしました。

弦楽四重奏や全員でのピアノ五重奏といったアンサンブルはもちろんのこと、ヴァイオリンの玉井菜採さん、城戸かれんさんはそれぞれソロも披露し、その素晴らしい演奏に会場は大きな拍手で包まれました。



撮影: Ayumi Kakamu

### ローム ミュージック フェスティバル特設WEBサイト

出演するローム ミュージック フレンズのフェスティバルに向けた意気込みも掲載予定。また、過去のフェスティバルのダイジェスト映像もご覧いただけます。



R.シューマン  
3つのロマンス Op.94

玉井菜採 (ヴァイオリン)  
浜野与志男 (ピアノ)

### A.ドヴォルザーク 弦楽四重奏曲 第12番へ長調 「アメリカ」 Op.96 B.179

玉井菜採 / 城戸かれん (ヴァイオリン)  
田原綾子 (ヴィオラ)  
中木健二 (チェロ)



J. ブラームス  
F.A.E. ソナタより 第3楽章  
R. シューマン  
F.A.E. ソナタより 第4楽章

城戸かれん (ヴァイオリン)  
浜野与志男 (ピアノ)

### J. ブラームス ピアノ五重奏曲へ短調 Op.34

玉井菜採 / 城戸かれん (ヴァイオリン)  
田原綾子 (ヴィオラ)  
中木健二 (チェロ)  
浜野与志男 (ピアノ)





# Ken Sato Memorial Concert

～小山実稚恵が奏でるロマン派の巨人たち～



かつてピアニストを目指していたロームの創業者 佐藤研一郎は、会社を起業してからも音楽を愛する気持ちを持ち続け、私財を投じて「ローム ミュージック ファンデーション」を設立し、若い音楽家への支援やコンサートの支援など多くの活動を実施してきました。

生涯音楽を愛した佐藤研一郎の意志を末永く紡いでいくため、毎年1月に美しいお花に囲まれたステージで世界で活躍する一流の音楽家によるコンサートを開催しています。

第3回目となる今回は、圧倒的存在感をもつ日本を代表するピアニスト 小山実稚恵さんをお迎えし、ロームシアター京都サウスホールにて2024年1月13日に開催しました。

当日はロマン派の巨匠であるブラームス、シューベルト、ショパンが晩年に遺した名作を披露。小山さんの一音一音魂のこもった演奏に会場は息を飲み、世界に惹きこまれていきました。

アンコールではショパンのワルツ第7番など名曲を3曲も演奏していただき、別れを惜む割れんばかりの拍手の中、コンサートは幕を閉じました。

## program

ブラームス：3つの間奏曲 op.117より  
第1番 変ホ長調 op.117-1 第2番 変ロ短調 op.117-2

シューベルト：即興曲 op.90(全4曲)  
第1番 ハ短調 op.90-1 第3番 変ト長調 op.90-3  
第2番 変ホ長調 op.90-2 第4番 変イ短調 op.90-4

ショパン：ノクターン 第2番 変ホ長調 op.9-2  
ピアノ・ソナタ 第3番 ロ短調 op.58

(アンコール)  
ショパン：マズルカ 第45番 イ短調 op.67-4  
ピアノ協奏曲 第2番 op.21  
第2楽章 ラルゲット  
ワルツ 第7番 嬰ハ短調 op.64-2



撮影：佐々木卓男

## Ken Sato Memorial Concert

ホール入り口に設置したウェルカムボード



「お客様にお喜びいただけること」を大切にしていた佐藤の想いを受け、当日は会場全体を生花で装飾いたしました。またそのお花は終演後にご希望の方へプレゼントさせていただきました。

ホワイエの様子



ホールの様子



お花をお持ち帰りいただく様子



情報誌「ローム ミュージック フレンズ」No.2、No.3に、佐藤研一郎と小澤征良氏との対談を掲載しています。佐藤の音楽への思いなどは非ご覧ください。

こちらのQRコードからご覧いただけます

No.2



No.3





# Ken Sato Memorial Concert

## インタビュー

～Ken Sato Memorial Concert に寄せて～

Ken Sato Memorial Concert Vol.3に出演されたピアニストの  
小山美稚恵さん。本公演のプログラムのことや、音楽を志す方への  
メッセージなど、コンサートの前日に伺ってきました。

ピアニスト

小山 美稚恵 *Michie Koyama*

©Hideki Otsuka



### Profile

圧倒的存在感をもつ日本を代表するピアニスト。チャイコフスキー国際コンクール、ショパン国際ピアノコンクール入賞以来、常に第一線で活躍し続けている。協奏曲のレパートリーは60曲を超え、国内外の主要オーケストラや指揮者からの信頼も厚く、モスクワ放送響、ベルリン響、ロイヤル・フィル、BBC響、ワルシャワ・フィル、モントリオール響などとも共演している。16年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した「12年間・24回リサイタルシリーズ」や「ベートーヴェン、そして...」が、その演奏と企画性が高く評価された。2022年からはサントリーホール・シリーズ、第1シーズンConcerto<以心伝心>を25年まで開催している。ショパン、チャイコフスキー、ロン＝ティボーなど国際音楽コンクールの審査員も務める。また、東日本大震災以降は、被災地で演奏を行い、仙台では被災地活動の一環として自ら企画立案し「こどもの夢ひろば "ボレロ"」を開催。CDは、ソニーと専属契約を結び、33枚目となる最新CD「モノローグ」まで7作連続して「レコード芸術」特選盤に選ばれる。著書として「点と魂」、平野昭氏との共著「ベートーヴェンとピアノ」を出版している。05年度文化庁芸術祭大賞、13年度東燃ゼネラル音楽賞本賞、15年度文化庁芸術祭優秀賞受賞。17年度紫綬褒章受章。

### — まずは今回のプログラムの選曲理由をお教えください。

ロームシアター・サウスホールは黒が基調のシックなホールです。その中に今回のカラー「オレンジ」の美しい花々が飾られることをイメージし、また佐藤さんが好きだったショパンのノクターンの響きを思い描きながら選曲をしました。私の新年初のリサイタルということもあり、希望を込めて、音楽の充実をという観点で考えたプログラムです。ショパンのソナタは口短調、不安を帯びた調性ですが、その口短調が第4楽章の最後には口長調で響く。それは今ちょうど、コロナや世界情勢の不安の中にもありますが、これから明るい未来が見えてくる、曲の最後は希望に向かいながら終わりたいと思いました。

私は東北出身ですので、ピアノを始めた子供の頃からいつも自然の中にいました。深い森の木々の間から差し込むやわらかな光、静謐さを感じるブラームスの音がコンサートの最初に響いたら美しいなと思い、

晩年の作品から3つの間奏曲を選びました。自然を感じる曲なんですよ。深い緑の森、そして自然の草木の薫りみたいなものを感じてもらえたら嬉しいなと思ったのです。そして優しさで包んでくれるシューベルトの即興曲。

今回の曲目は全て作曲家晩年の作品です。シューベルトもショパンも早逝の作曲家ですが、晩年の作品は人生の凝縮であるように思えます。非常に完成度が高く、一つ一つの音にいろいろな意味がこもっているの、今年がそういう充実の年になるように願ひも込めました。

### — 小山さんは東北で「こどもの夢ひろば ボレロ」など子ども向けの活動も継続されており、その中で例えば他のジャンルとのコラボだったり、体験型だったりさまざまな活動をされていますね。

私は学校で教えるなど教育機関には所属していませんし弟子もおりませんので、今は演奏だけやっていま



す。その分と言いますか、被災地活動やアウトリーチ活動を小学校などで行っています。子供たちに音楽に触れ合ってもらえる機会を作りたいんです。学校の講堂や音楽室で、学校のピアノを使って子供たちに生のピアノ演奏を聴いてもらうのですが、「今日、初めてコンサートを聴きました」など、子どもたちにとっては講堂の演奏はコンサートのようなものです。喜んでくれます。

コンサートって子どもだけでは会場に行くことができないですよ。どこでチケットを買ってどうやってコンサートに入場するのか全くわからない。親や先生など誰かが連れて行ってこれればのことなんです。だから、私が行って弾いたらいいかなって思ったんです。1回でも生の演奏を聴けば、親しみがわく。0が1になるので、それがとても大切だと思いました。音楽文化の啓蒙とか支援の継続が大事と佐藤さん※は常に言われてたそうですが、まさに私もその通りだと思っています。まず最初の一步を踏み出して、そこから継続です。一回目は「今日は初めてコンサートに行った」けど、今度は「この曲を聴きたい」となり、次は「どういう風に弾くのだろう」と理解が深まっていくのです。そうしてちょっと近寄り難かったものでも、身近になってくると思うのです。

子どもって好きなものが違いますよね。スポーツが好きな子もいれば、化学が好きな子もいれば、読書が好きな子もいる。音楽が好きな子は多いと思いますが、音楽にピンとくるかどうかは分からない。何がフィットするかわからないので、まずいろいろと実際に体験して、その中で「いいな」「面白いな」「楽しいな」と感動することが大切だと思うんですよ。「あ！これ好きかも」と思ったり、「これがいい」と思えばそこから興味が湧く。仙台で行っている「こどもの夢ひろば」の中心は、45分の短いコンサートですが、初めて音楽に触れてワットとちょっと興奮したような状態の時に、他のジャンルのものを見て体験して「あ、これも面白いかも」と思ったりする。また、「あ、同じくらいの年の子があんなことしてる」と思えば、自分と近い意識でそのもの

を見つめるようになってくる。今まで全く知らない世界のことで身近にやれるようになるんですよ。世界を見て100メートル短距離走は、10秒の壁があつくて何十年も切れなかったじゃないですか。なのに一人が9秒台を出したら、そこからどんどん9秒台を出せる人が出現して。あれってやっぱり、あの人ができるなら自分もできるんじゃないかって思ったことによる結果だと思うんですよ。自分なりに頑張るというのではなく、自分がボーダーを決めずにやるのが大事なんじゃないかな。

※ローム株式会社の創業者でローム ミュージック ファンデーションを設立した故 佐藤研一郎

### — 最後に、今音楽を勉強している若い方に伝えたいことをお教えください。

楽器って扱う難しさがたくさんありますから、扱いが上手になるといふか、技術を身に付けることは必要です。重要ですが、やはりそれよりもピアノが好きになることの方がずっとずっと大切だと思うんですよ。ピアノは自分の気持ちを出す一つの手段。上手に弾くためにピアノがあるのではなく、心を伝えるためにピアノがあると思うんです。勉強ではあるけれど、好きであることを絶対に忘れないでピアノに向かってほしい。音楽大学に行っているのに、あまり音楽が好きでなくなってしまう、逆に音楽が好きすぎて辞めてしまう人っているんですよ。自分の演奏に絶望してというか、「何で思う通りに弾けないんだろう！」って。自分のピアノに疑問も持たずに、小さい頃から弾き続けたから惰性で弾き続けるのではなく、好きでたまらない気持ちでピアノを弾き続けて欲しい。「すごく好きだからこれをやってる！」ってね。それが音楽の第一歩だと思うんです。挫折してピアノをやめてしまった人でも、ずっと心から音楽を愛し続けている人を私はたくさん知っています。そういう人が第二の人生でまたピアノに向かう姿を見たりすると、本当に素晴らしいなと思います。今そのぐらいの強い愛で、弾いてほしいと思っています。



# ピアノ寄贈事業

ピアノ寄贈事業は、全国の演奏家を養成する教育機関において老朽化したピアノを良質なものをへ入れ替えることで、学生たちが音楽を楽しみ、学ぶ環境を整える一助となり、音楽文化の普及と発展へ繋がることを期待するもので、寄贈を希望する教育機関に新品のピアノを寄贈しています。2023年度は全国で公募を実施し、審議の結果10校の寄贈を決定しました。

## (参考) 募集概要

### 1. 寄贈対象

音楽学部、またはそれに相当する演奏家養成の枠組みを有する全ての大学

### 2. 寄贈内容

ピアノ本体1校あたり本体価格(定価・消費税等込)総額5,000万円を上限。各大学より提出された申請書及び大学への視察結果を総合的に評価し、寄贈するピアノ・台数等を決定いたします。

※台数、種類等は不問

※カバーや椅子などの付属品もあわせて寄贈

※運送設置費や保守点検費用なども負担

## 2023年度寄贈先大学

エリザベト音楽大学  
桜美林大学  
大阪音楽大学  
沖縄県立芸術大学

国立音楽大学  
昭和音楽大学  
東京音楽大学  
広島文化学園大学

平成音楽大学  
武蔵野音楽大学

※寄贈先大学(五十音順)

### 寄贈したピアノ(一部)



国立音楽大学に寄贈したピアノ



大阪音楽大学に寄贈したピアノ

30周年記念曲とともに  
日本全国にオーケストラの音楽をお届けする特別企画!

## ROHM MUSIC FOUNDATION 30<sup>TH</sup> ANNIVERSARY PROJECT Vol.3

# 仙台フィルハーモニー管弦楽団 プレミアム・コンサート in 仙台

プロジェクト特設  
サイトはこちら



ローム ミュージック ファンデーションの設立30周年を記念し始まった、日本全国でコンサートを開催するプロジェクト「ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT」。今回その第3弾として、2023年12月24日に電力ホール(仙台市)にて「仙台フィルハーモニー管弦楽団 プレミアム・コンサート in 仙台」を開催しました。本プロジェクトはこれまで京都、福岡で開催しており、今回が初の東北公演となりました。

ローム ミュージック フレンズである垣内悠希さんの指揮と仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏でお届けした本公演も、Vol.1、Vol.2と同じく岩代太郎さんに作曲していただいた設立30周年記念委嘱作品「東風慈音ノ章(こちじおんのしょう)」で幕を開けました。

2曲目のモーツァルトのヴァイオリン協奏曲には、同じくロームミュージック フレンズの郷古廉さんが登場し、その素晴らしい演奏に会場は大きな拍手で包まれました。

メイン曲は、ベートーヴェン作曲の「交響曲 第7番」をお届けしました。今回も司会の朝岡聡さんによる楽曲のポイント解説が行われ、お客様には聴きどころに注目しながら、生命力あふれる壮大な音楽をご堪能いただきました。

今後も本プロジェクトは全国各地でコンサートを開催します。お近くの会場で開催の際は、ぜひご来場ください。



日程	2023年12月24日(日) 16:00開演(15:15開場)
会場	電力ホール
出演者	指揮者: 垣内 悠希* ヴァイオリン: 郷古 廉* 管 弦 楽: 仙台フィルハーモニー管弦楽団 司 会: 朝岡 聡 *ローム ミュージック フレンズ



ルーム ミュージック チャンネル  
「Kyoto × Classics」

『京都とクラシック音楽』

都に響く、美しき音色と風景。クラシックで巡る、『響と旅』。



歴史ある京都の名所と伝統あるクラシック音楽を  
ルーム ミュージック ファンデーションが結びます。

「ルーム ミュージック フレンズ」が京都の名所で行うコンサートを  
オンラインでお届けする「Kyoto×Classics(京都クラシックス)」シ  
リーズを2021年度より実施しています。会員登録不要、無料で  
ルーム ミュージック フレンズの演奏と京都の風景をお楽しみ  
いただけます。  
過去に配信を行った全てのコンサートをアーカイブ配信しており  
ますので、ぜひご覧ください。



最新のコンサート

Kyoto×Classics Vol.9 京都国立近代美術館  
～京都画壇の印象から生まれる二人の新たな音楽～  
＜2023年11月20日配信＞

- ◆作曲/向井 響、向井 航
- ◆演奏/フルート:八木 瑛子、ヴァイオリン:大江 馨、  
チェロ:水野 優也、ピアノ:リード 希聖奈
- ◆ナビゲーター:森口 博子



撮影:佐々木卓男

ROHM CLASSIC SPECIAL  
新国立劇場

高校生のためのオペラ鑑賞教室・  
京都公演「魔笛」

(ルーム ミュージック ファンデーション助成、ルーム株式会社協賛)

若い世代に、優れたオペラを鑑賞する機会を通して芸術文化の素晴らしさを伝えるため、新国立劇場にて1998年からスタートしたこの鑑賞教室。

2008年からは関西でも開催し、2016年からはルームシアター京都で開催されています。

音楽文化の普及と発展には、優秀な音楽家の育成とともに音楽ファンの拡大も重要との考えから、ルーム株式会社は1999年から、ルーム ミュージック ファンデーションは2008年から毎年継続的に支援しています。

今年の京都公演でも、2日間で多くの感性豊かな高校生が鑑賞し、大盛況のうちに幕を閉じました。

この鑑賞教室が、多くの高校生にとってオペラに親しみ、そして楽しむきっかけになることを願っています。

新国立劇場  
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023  
2023年10月26日(土)・27日(日)  
14時30分開演(17時開演) 上演時間 約90分(休憩15分)  
1000席限定 京都メインホール(京都国立近代美術館内)

チケット料金  
高座席 2,000円  
A席 1,500円  
B席 1,000円  
C席 500円

TEL.075-771-6051



提供:新国立劇場、舞台写真撮影:寺司正彦



ROHM CLASSIC SPECIAL

日本フィルハーモニー交響楽団

## コバケン・ワールド Vol.34, 35

(ローム ミュージック ファンデーション助成、ローム株式会社協賛)

「コバケン・ワールド」シリーズは、2004年8月より「コバケン・ガラ」というタイトルで始まった、日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉指揮者の小林研一郎さんが自らお客様へ舞台から語りかけ、指揮をするという人気のシリーズです。

今回は2023年度に実施されました、Vol.34, 35をご紹介します。



Vol.34は、2023年6月4日(日)に、サントリーホールにて開催されました。ソリストは、圧倒的存在感を放つピアニスト、小山実稚恵さん。これまでに日本フィルハーモニー交響楽団と何度も共演を重ねて練り上げてきたチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番が披露されました。

壮大なホルンの響きから続けて奏でられる情熱的なピアノの音色に序盤から会場は熱気に包まれました。ラストの迫力ある演奏はまさに圧巻で、会場の拍手はしばらく鳴りやみませんでした。



続いて、Vol.35は、2023年9月24日(日)に東京芸術劇場で開催されました。ベートーヴェンの大家、仲道郁代さんによるピアノ協奏曲第5番「皇帝」は、オーケストラと織り成すハーモニーがとても美しく、酔いしれた満員のお客様から熱狂的な拍手が送られました。

後半のブラームスの交響曲第1番は「コバケン&日本フィル」の鉄板。指揮者が微動だにせずともオーケストラと阿吽の呼吸で演奏する場面も見られました。

ローム ミュージック フレンズからの

# お便り

*The letter from rohm music friends*

ローム ミュージック フレンズから届いた  
ご活躍の様子を一部ご紹介します。(順不同)

氏名【専攻】 奨学年度  
給付時の在籍学校



## 音楽の道

かつき うらら

香月 麗【チェロ】 2019, 2020年度奨学生

ローザンヌ高等音楽院 シオン校



スイスからフランスへと学びの地を移し、留学生活5年目となりました。現在はパリ国立高等音楽院に在籍しています。イタリア、ドイツ、フランスでの演奏会を経験し、それぞれの土地でいただく拍手や共演者の方々との心躍る瞬間が日々の糧となっています。そのなかでも2023年の東京・紀尾井ホールでデビューリサイタルは、奨学生として学ばせていただいた今までの着地点となったとともに、私の演奏家人生における第一歩でした。これからも支えてくださるすべての方への感謝を忘れずに、学び気持ちを大切に音楽の道を歩んでいきたいと思っています。



紀尾井ホール



上/デビューリサイタル  
下/フィルハーモニー・ド・パリでの初本番にて、シュトゥットハウゼンのオペラに参加。



## 新たな出会い、まだ見ぬ景色を探して

さとう あやか

佐藤 采香【ユーフォニアム】 2018, 2019年度奨学生

ベルン音楽大学



この頃は桐朋学園大学にて後進の指導に取り組みつつ、自身としてはご縁をいただいた作曲家とタッグを組み作品の委嘱をすることに力を入れています。2023年夏に参加したダルムシュタット夏季現代音楽講習会で出会った方とTRIO「あれれ」を結成し、2024年夏の第1回演奏会にて清水チャートリーさんの新作初演に向け準備中です。

また所属しているEuph・TubaカルテットUeno Bass Clefが旧東京音楽学校奏楽堂にて満員のお客様の前で第2回演奏会を終え、福丸光詩さん(2022, 2023年度奨学生)の新作「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように」を初演いたしました。向井響さん(2019, 2020年度奨学生)の新作も2024年発表予定です!



上/ダルムシュタットにて憧れの方々と(左からGerard Buquet, Ernesto Molinari, William Forman)  
下/Ueno Bass Clef第2回演奏会にて福丸光詩さんの新作初演前のインタビューの様子





## ウィーンフィル アジアツアー

ありとみ ももこ  
有富 萌々子 [ヴィオラ] 2019、2020年度奨学生  
ウィーン国立音楽大学

私は現在、ウィーンフィル管弦楽団のアカデミー生としてオーケストラの勉強及び活動をしています。2023年の秋には同管弦楽団のアジアツアーにも参加し、日本公演ではたくさんのプログラムを持ってサントリーホールを含めた各地で演奏いたしました。これまでに何度も弾いてきたサントリーホールが、このツアーの間だけはいつもとは違う、何か特別な景色を見ていた様な気がしています。今私は本当に毎日が楽しいです。そしてこれからの自分の音楽人生に今からとてもワクワクしています。引き続き良い経験をたくさん積んでいき、さらに国際的に活動できるように精進してまいりたいと思います。



Philip Waldmann  
Momo Ariyotomi (Viola, Japan) 2023 - Impressionen Postcard  
concerto with Tugan Sokhiev at Saitoh Hall, Tokyo  
Christophe Adolph, Director post cardlet Saitoh Hall  
©: Momo Ariyotomi / Filip Waldmann



上下 / 日本公演



T.Taira@ada



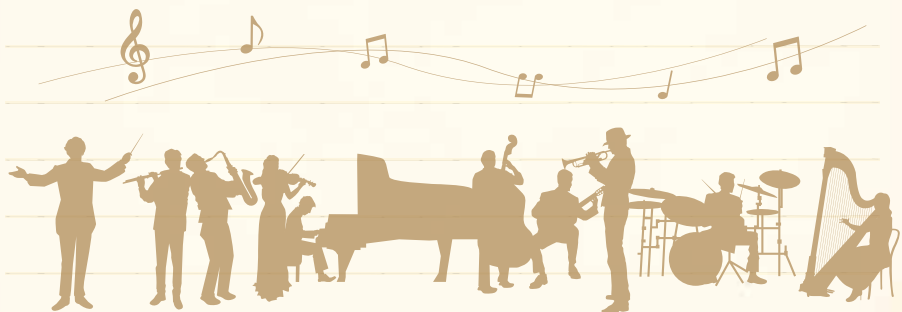
## 2024年の活動

やまもと こういちろう  
山本 浩一郎 [トロンボーン] 1992、1993年度奨学生  
ジュリアード音楽院

2022年にアカデミー賞受賞作曲家、Tan Dun氏のトロンボーン協奏曲のアメリカ初演をシアトル交響楽団と共演。おかげさまで2024年は本職であるシアトル交響楽団で忙しく働いておりますがアジア圏そしてアメリカ各地でリサイタルやマスタークラスを行いました。2024年は上海、東京、韓国そしてドイツにご招待いただいております。



Brandon Potac



## ローム ミュージック ファンデーション プログ

# 奨学生レポートより

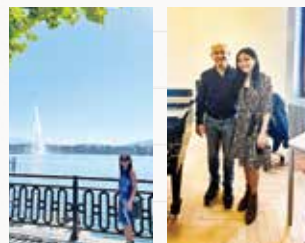


おくい しお  
奥井 紫麻 [ピアノ]  
2023年度奨学生  
ジュネーヴ高等音楽院、グネーシン音楽大学



私は2023年6月にグネーシン音楽学校を卒業し、2023年9月よりジュネーヴ高等音楽院とグネーシン音楽大学を行き来しながら学んでいます。今はモスクワから欧州へ行くにも一苦労という時代になってしまったので、このようなプランを実現できたのはロームミュージックファンデーションのサポートのおかげであり、心から感謝しております。

ジュネーヴではネルソン・ゲルナー教授に師事しています。2023年の来日公演を聴かれた方もいらっしゃると思いますが、先生の演奏は本当に素晴らしく、レッスンのときもまるで先生のコンサートに舞台上で一緒にさせていただいているかのようです。レッスンでは多彩な音色のつくり方、先生のように質の良い豊かな音を出すための奏法も学んでいます。私の手は女性には大きく和音をつかむこと自体にあまり問題はないのですが、ffで弾くときに男性に比べて音が硬になってしまう点を改善したいと思っていました。ゲルナー先生のレッスンを受けるようになって自分の音が少しずつ変わってきていることを実感しています。



ジュネーヴのシンボル  
レマン湖の大噴水の前で  
ネルソン・ゲルナー教授と

11月から12月にかけてはロシアでウラディミール・スピヴァコフ及びアルセンティ・トカチェンコ指揮ロシア・ナショナル・フィルハーモニー管弦楽団とのコンサートツアーがありました。スピヴァコフ氏とは10歳のころより既に20回以上さまざまな国で共演しており、ずっと成長を見守っていただいております。私が今回演奏したのはショパンのピアノ協奏曲第1番で、どの会場にも本当にたくさんのお客様が聴きにきてくださいました。地方公演時には遠くから一輪のお花と自著を持ってきてくださったお婆様もいて、心が温かくなりました。



モスクワのザリャジエでのコンサート

2024年はジュネーヴでのゲルナー教授とのコンサートから始まります。ロシアやイタリア、そして日本での公演もいくつかあるので、今から楽しみに引き続き研磨を積んでまいります。



クラスノヤルスクでスピヴァコフ氏と

(2023年12月)



ローム ミュージック ファンデーション ブログ

奨学生レポートより



むろもと たくと  
室元 拓人 【作曲】  
2023年度奨学生  
ブローニュ=ビヤンクール地方音楽院

2023年に念願の留学生活がスタートし、学業と創作活動に励んでいます。

現在師事しているジャン=リュック・エルヴェ先生とのレッスンでは、作品の構成要素を分解し客観的に見つめ直すことで、アイデアをいかにして音楽へと昇華するか、ということを学んでいます。現在は弦楽四重奏曲に取り組んでおり、室内楽科の学生に試演してもらいながら細かな奏法についても突き詰めた議論を交わす日々です。レッスンでの学びを活かし試行錯誤を重ねながら、年度末の発表に向け制作を進めてまいります。

10~11月には、休暇を活かし、ヨーロッパ各地で多様な音楽的文脈に触れることができました。10月初旬、オーストリアのグラーツを訪れ、現代音楽祭“ムズィークプロトコル”を鑑賞しました。「生物学的プロセス」をテーマに掲げたクラングフォルム・ヴィーンの演奏会では、パフォーマンスを含む器楽作品が並びましたが、それらが単に視覚的な効果に留まることなく、音響的にも豊かで説得力があり、印象深い体験でした。11月下旬には、作曲家オドレイ・アダメクのマスタークラスに選抜され、イタリアのローマに赴きました。14名の多様な国籍の受講生とともに学んだ1週間では、作曲法に関する講義のみならず、自作品についてプレゼンテーションをする機会もいただき、貴重な経験となりました。指揮者でもあるアダメクさんからは、作曲家自身も実際の演奏行為を常に意識しながら創作と向き合うことを学びました。

今後は、音楽院での作品発表とともに、ソロ作品や室内オーケストラ作品を作曲する機会もいただいております。ご支援のもとに学び続けられることへの感謝を胸に、引き続き創作活動に邁進してまいります。



制作中の弦楽四重奏曲と、コンセプトを記したノート



グラーツにて 現代音楽祭“ムズィークプロトコル”



ローマにてオドレイ・アダメクのマスタークラス  
パリ近郊・ヴァンセンヌの街並み

(2023年12月)

ROHM CLASSIC SPECIAL

オペラの扉2023 悪女と悪党展

毎年大好評をいただいているオペラの扉展。新国立劇場が行う高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演開催に合わせ、貴重な舞台衣裳や装置模型などを展示し、多くのお客様にご来場いただきました。

- 開催期間：2023年9月13日(水)~2023年12月3日(日)
- 場所：ロームシアター京都 ミュージックサロン、1階プロムナード
- 主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
- 共催：ローム株式会社
- 制作：新国立劇場



ROHM CLASSIC SPECIAL

小澤征爾音楽塾展2024

2024年に小澤征爾音楽塾がお届けする「コジ・ファン・トゥッテ」。作品の見どころ、若い音楽家たちを導く首席指揮者の素顔、作品の解説や小澤征爾氏直筆の楽譜コピーなどをご紹介する小澤征爾音楽塾展を開催いたしました。

- 開催期間：2024年1月15日(月)~2024年3月17日(日)
- 場所：ロームシアター京都 ミュージックサロン、1階プロムナード
- 主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
- 共催：ローム株式会社
- 協力：株式会社ヴェローザ・ジャパン



ローム ミュージック ファンデーション ブログでも、現役奨学生からのレポートや財団の事業の紹介などを掲載しています。  
<https://micro.rohm.com/jp/rmf/blog/>





# 奨学生一覧

(各分野五十音順)

## ヴァイオリン／119人

青木 尚佳  
青谷 友香里  
アシュリー マリア アヤ  
東 珠子  
荒井 優利奈  
荒井 里桜  
安彦 千恵  
伊賀 あや  
石橋 幸子  
石原 悠企  
泉原 隆志  
磯 絵里子  
糸井 真紀  
伊藤 文乃  
井上 奈央子  
上野 明子  
植村 太郎  
植村 菜穂  
植村 理葉  
牛草 春  
エリック・シューマン  
尾池 亜美  
王 中男  
大江 馨  
大岡 仁  
大島 莉紗  
大関 万結  
大谷 玲子  
岡崎 慶輔  
岡本 誠司  
小川 恭子  
落合 真子  
小野 明子  
樫本 大進  
加野 景子  
神尾 真由子  
神谷 未穂  
川村 奈菜  
木嶋 真優  
岸本 萌乃加

北川 千紗  
橘和 美優  
城戸 かれん  
木村 悦子  
清永 あや  
日下 紗夕子  
倉富 亮太  
黒川 侑  
郷古 廉  
小林 杏成  
小林 美緒  
小林 美樹  
佐橋 まどか  
佐々木 つくし  
佐藤 久成  
篠原 悠那  
志満 直美  
島田 真千子  
島原 早恵  
清水 有紀  
白井 麻友  
菅井 京子  
鈴木 愛理  
鈴木 舞  
周防 亮介  
関 朋岳  
高木 凜々子  
滝 千春  
瀧村 依里  
田島 悠子  
立上 舞  
田中 晶子  
田中 晶子  
谷本 華子  
玉井 菜採  
千葉 水晶  
辻 彩奈  
坪井 夏美  
東條 太河  
土岐 祐奈  
戸澤 采紀

長尾 春花  
中島 麻  
中野 りな  
中村 太地  
成田 達輝  
西川 茉莉奈  
西澤 和江  
二瓶 真悠  
服部 百音  
林 悠介  
原 麻里亜  
原田 亮子  
東 亮汰  
福田 麻子  
福田 廉之介  
藤江 扶紀  
外村 理紗  
本田 莉愛  
前田 志乃  
正戸 里佳  
松川 暉  
松田 理奈  
三上 亮  
村田 美英  
毛利 文香  
守屋 剛志  
森山 まひる  
安田 理沙  
矢野 玲子  
山根 一仁  
梁 美沙  
弓 新  
湯本 亜美  
吉江 美桜  
吉田 南  
吉本 梨乃  
米元 響子  
渡邊 ゆづき

## ヴィオラ／14人

赤坂 智子  
有富 萌々子

大野 若菜  
金丸 葉子  
坂口 翼  
杉田 恵理  
瀧本 麻衣子  
田畑 音楽  
田原 綾子  
中島 悦子  
原 麻理子  
牧野 葵美  
山崎 智子  
渡邊 千春

## チェロ／43人

泉 優志  
伊東 裕  
伊藤 悠貴  
上野 通明  
植村 葉夏  
江口 心一  
遠藤 真理  
岡本 侑也  
奥田 なな子  
香月 麗  
加藤 文枝  
門脇 大樹  
上村 文乃  
唐沢 安岐奈  
北村 陽  
熊澤 雅樹  
佐々木 蘭望  
笹沼 樹  
佐藤 晴真  
佐山 裕樹  
柴田 花音  
高木 慶太  
辻本 玲  
鳥羽 咲音  
中木 健二  
長谷川 彰子  
林 裕  
櫃本 瑠音

平野 朝水  
藤井 泉  
藤原 秀章  
堀江 牧生  
松山 翔子  
マーク・シューマン  
水野 優也  
三井 静  
峰本 更  
宮田 大  
森田 啓佑  
山上 ジョアン 薫  
山本 徹  
横坂 源  
渡邊 方子

## クラシックギター／6人

齋藤 優貴  
谷辺 昌央  
藤元 高輝  
松本 大樹  
山下 愛陽  
山田 唯雄

## ヴィオラ・ダ・ガンバ／1人

酒井 淳

## フルート／23人

阿部 礼奈  
井坂 実樹  
石井 希衣  
岩瀬 桐子  
上野 星矢  
大久保 彩子  
久保 順  
倉田 優  
小山 裕幾  
清水 伶  
庄田 奏美  
瀧本 実里  
竹山 愛  
中村 薫  
萩原 貴子  
藤井 香織

本宮 湖心  
増本 竜士  
森岡 有裕子  
八木 瑛子  
山本 英  
若林 かをり  
渡邊 玲奈  
オーボエ／5人  
荒 絵理子  
岡山 理絵  
鷹栖 美恵子  
田代 奏子  
本多 啓佑

## クラリネット／11人

梅原 希枝  
金子 平  
小林 知世  
小山 洋子  
亀居 優斗  
白子 正樹  
辻本 聡子  
中川 知美  
原田 綾子  
福田 さあや  
吉田 誠

## サクソフォン／3人

住谷 美帆  
中島 諒  
山本 航司  
ファゴット／4人  
小山 莉絵  
中野 陽一朗  
藤村 踊子  
保崎 佑

## トランペット／3人

菊本 和昭  
佐藤 友紀  
三村 梨紗

## トロンボーン／2人

清水 真弓  
山本 浩一郎

## ユーフォニアム／2人

安東 京平  
佐藤 采香

## 打楽器／5人

池上 英樹  
岩見 玲奈  
沓野 勢津子  
通崎 睦美  
福山 直子

## ハープ／5人

景山 梨乃  
シュレイファー 弓子  
高野 麗音  
林 千佳世  
福井 麻衣

## パイプオルガン／1人

椎名 雄一郎

## チェンバロ／2人

北御門 はる  
脇田 英里子

## ピアノ／154人

秋山 紗穂  
浅野 未麗  
有吉 亮治  
五十嵐 薫子  
石井 楓子  
石川 武蔵  
石田 啓明  
石村 純  
乾 絵美  
今井 彩子  
今田 篤  
入江 一雄  
岩本 恵理  
牛田 智大  
梅崎 秀  
梅村 知世  
江澤 茂敏  
江尻 南美  
大井 浩明  
大崎 真真

太田 糸音  
大西 真由子  
岡田 奏  
岡本 麻子  
奥井 紫麻  
奥田 暁仁  
奥田 ななみ  
奥村 友美  
小倉 美春  
小沢 麻由子  
尾城 杏奈  
越知 晴子  
小野田 有紗  
海瀬 京子  
開原 由紀乃

## チェンバロ／2人

梯 剛之

## チェンバロ／2人

加藤 大樹  
加藤 洋之  
加野 瑞夏  
神野 千恵

## チェンバロ／2人

亀井 聖矢  
河内 仁志  
川崎 翔子  
川島 基

## チェンバロ／2人

川田 健太郎  
河村 尚子  
菊地 裕介  
菊池 洋子

## チェンバロ／2人

木口 雄人  
喜多 宏丞  
清塚 信也  
日下 知奈  
工藤 奈帆美

## チェンバロ／2人

久保 千尋  
倉澤 杏菜  
黒岩 航紀  
黒田 哲平  
桑原 志織  
小井土 文哉  
高 実希子

壽 千明  
小林 愛実  
小林 有沙  
小林 海都  
齊藤 一也  
阪田 知樹  
坂本 真由美  
崎谷 明弘  
佐々木 宏子  
佐竹 裕介  
佐藤 卓史  
佐藤 彦大  
佐藤 麻理  
佐藤 元洋  
佐野 まり子  
紫垣 英二  
志鷹 美紗  
釈迦源 洋介  
白川 多紀  
進藤 実優  
菅野 雅紀  
鈴木 謙一郎  
住友 郁治  
関本 昌平  
芹澤 佳司  
反田 恭平  
高田 匡隆  
高橋 礼恵  
内匠 慧  
田中 香織  
田中 正也  
谷 昂登  
谷口 知聡  
田村 響  
久保 遥一郎  
津嶋 啓一  
津田 裕也  
鶴見 彩  
土居 知子  
中尾 純  
中川 優芽花

## チェンバロ／2人

栢原 佳奈

## チェンバロ／2人

加藤 大樹  
加藤 洋之  
加野 瑞夏  
神野 千恵

## チェンバロ／2人

亀井 聖矢  
河内 仁志  
川崎 翔子  
川島 基

## チェンバロ／2人

川田 健太郎  
河村 尚子  
菊地 裕介  
菊池 洋子

## チェンバロ／2人

木口 雄人  
喜多 宏丞  
清塚 信也  
日下 知奈  
工藤 奈帆美

## チェンバロ／2人

久保 千尋  
倉澤 杏菜  
黒岩 航紀  
黒田 哲平  
桑原 志織  
小井土 文哉  
高 実希子

中桐 望  
中島 彩  
長瀬 賢弘  
中元 千鶴  
奈良 希愛  
新美 光映  
沼澤 淑音  
野上 真梨子  
萩原 麻未  
橋本 尚  
服部 慶子  
花岡 克典  
浜野 与志男  
林田 麻紀  
樋口 一朗  
久末 航  
日高 志野  
平松 悠歩  
福田 和子  
藤田 真央  
古海 行子  
真隅 政大  
松岡 久美  
松岡 淳  
松本 和将  
丸山 耕路  
丸山 凪乃  
萬谷 衣里  
ミア・エレゾヴィッチ  
三浦 友理枝  
三戸 あけみ  
三宅 麻美  
宮下 彩子  
宮田 理生  
務川 慧悟  
村田 理夏子  
村松 珠美  
望月 晶  
森田 義史  
矢島 愛子  
山縣 美季

# 奨学生一覧

(各分野五十音順)

山田 剛史  
山本 亜希子  
吉兼 加奈子  
ティーテン 吉川 右希子  
吉田 友昭  
吉武 優  
吉見 友貴  
米津 真浩  
李 早恵  
リード 希亜奈  
脇岡 洋平  
オルガン/2人  
福本 茉莉  
宗 かおり  
声楽/64人  
石井 教子  
市原 愛  
乾 麻里子  
上杉 清仁  
江口 輝博  
大島 京子  
岡田 昌子  
加藤 幸幸  
加藤 麻衣  
上島 緑  
川島 幸子  
川原 成子  
木下 周子  
木下 美穂子  
木村 善明  
木村 里花子  
蔵田 みどり  
栗原 峻希  
小玉 晃  
小林 沙羅  
近藤 圭  
崔 宗宝  
坂本 知亜紀  
志摩 大喜  
清水 俊徳  
清水 勇磨

周 江平  
杉原 かおり  
鈴木 愛美  
高橋 維  
田邊 織恵  
谷口 伸  
谷村 由美子  
田村 麻子  
趙 非  
津國 直樹  
辻 裕久  
寺田 功治  
田 大成  
富岡 明子  
中川 恵美里  
中嶋 俊晴  
中島 康晴  
鳴海 真希子  
林 佑子  
深瀬 廉  
藤木 大地  
藤谷 佳奈枝  
本田 智衣  
又吉 秀樹  
松島 理紗  
松原 友  
真野 路津紀  
溝瀧 悠理  
峯島 望美  
宮里 直樹  
森野 美咲  
山下 新吾  
山本 美央  
吉澤 淳  
吉田 一貴  
吉田 貴子  
藍 野流  
李 恩敬  
指揮/23人  
栗辻 聡  
石川 星太郎

伊藤 翔  
大井 駿  
垣内 悠希  
川本 貢司  
岸本 有理  
鬼原 良尚  
齊藤 一郎  
阪部 慎太郎  
篠崎 靖恵  
下野 竜也  
杉本 優  
橋 直貴  
田中 祐子  
寺岡 清高  
阪 哲朗  
三ツ橋 敬子  
村上 寿昭  
村中 大祐  
森 香織  
森口 真司  
森田 宏樹  
作曲/25人  
阿部 俊祐  
稲森 安太己  
今井 智景  
小野田 健太  
北爪 裕道  
木下 正道  
小出 稚子  
酒井 健治  
坂田 直樹  
塚本 瑛子  
中川 佐織  
中橋 祐紀  
夏田 昌和  
朴 炳五  
福丸 光詩  
松宮 圭太  
松本 直祐樹  
ママットウメル  
向井 響

計 540人 (2024年2月現在)

向井 航  
室元 拓人  
山口 紘  
李 大軍  
渡邊 愛  
渡辺 裕紀子  
教会音楽/1人  
小山田 薫  
音楽学/18人  
金 士友  
貞方 マキ子  
周 耘  
白石 悠里子  
菅沼 起一  
関本 菜穂子  
園田 みどり  
高野 裕子  
東田 範子  
戸祭 哲子  
中村 伸子  
西村 理  
畑野 小百合  
早坂 牧子  
丸山 瑠子  
村田 圭代  
山本 明尚  
李 金叶  
オペラ演出/4人  
井原 広樹  
郭 才銀  
馬 金泉  
森岡 純子

# RMF 奨学生 先輩からのメッセージ

Message

— RMF奨学金へ応募されたきっかけを教えてください。

☆響さん  
私の通っていた桐朋学園にはRMF奨学生が多くいたので前から奨学金制度を知っていました。自分のキャリアにつながるような奨学金だと思っていたため、留学をはじめた数年経ち、更にキャリアアップしたいというときに応募しました。

☆航さん  
留学生活にかかる生活費や渡航費の負担があり応募しようと考えていましたが、加えて、自分が今まで頑張ってきた勉強の力試しをしてみようという気持ちもありました。私たちはあまり採択されるとは思っておらず、挑戦という意味合いが強かったです。ローム ミュージック フレন্ズの先輩方がアンサンブルをしている姿などを見ていたので、ローム ミュージック フレন্ズというつながりへの憧れもあり、2人で応募しようということになりました。

— お二人同時に、2019,2020年度奨学生に採択されましたね。

☆響さん、航さん  
作曲、現代音楽は結果が目に見えにくい分野ですが、自分たちが今まで築いてきたものを認めていただけて、採択されたときはとても嬉しかったです。他の奨学金だと作曲専攻には応募資格が無いこともありますが、RMF奨学金は幅広い分野の音楽学生が応募できるためありがたかったです。

— 奨学金は主にどんな用途で活用されていましたか。

☆響さん  
作曲の分野では、コンペティションに合格したら1か月後に初演に立ち合い、ということがよくありますが、そこから初演場所の滞在費用を賄うための助成金を申請しては間に合いません。そういったときにRMF奨学金があったことで、躊躇せずに挑戦することができました。作曲家は人に会ったり、さまざまな行事に参加したりするなど自身で活動の幅を広げていく必要がありますが、その際に奨学金は大きな支えでした。RMF奨学金は「学費だけ」などという使用用途の制限がないため、その点が非常に魅力だと思います。

☆航さん  
私はパフォーマンスを使うような、舞台芸術作品の制作を行っ



向井 響

(2019, 2020年度奨学生)

作曲家。桐朋学園大学卒業。ハーグ王立音楽院ソロジエ研究所修士課程を首席で修了。第84回日本音楽コンクール作曲部門、マータン・ギヴォル国際作曲賞、ORDA-2019作曲部門、第33回ACL青年作曲賞、各1位、ローソン・メイ作曲賞、マリン・ゴレミノフ国際作曲賞を受賞。これまでに、NHK、カルースト・ブルベキアン財団、モスクワ国立電子音響センター、ストラズブル現代音楽祭より委嘱を受ける。RMF奨学生、令和3年度文化庁新進芸術家海外研修員。現在ポルト大学大学院博士課程に在籍。

ており、演出も含めすべて一人で取り組んでいます。ただそのためにはさまざまな分野の知識が必要であるため、ヨーロッパ各地の舞台を鑑賞したりシンポジウムに参加したりして学びを得ることが大切になってきます。そういったインプットのために奨学金を使用することが多かったなと思います。またオペラの会場を押さえたり、リハーサルを行ったりという作品完成までの過程でも奨学金が大きな助けになり、妥協せずに納得のいく作品を制作することができました。

— スカラシップ コンサートに参加した際のエピソードはありますか。

☆響さん  
スカラシップ コンサートで演奏を依頼したアーティストの方々には前から興味を持っていたのですが、お忙しいばかりなのでお声がけできないでいました。そんななか、スカラシップ コンサートという機会をいただけて、またロームさんの強力なサポートがあったからこそ、作品が書けたのだと思っています。

☆航さん  
一般的に作曲家の仕事というのは、編成などは依頼主の希望に沿って作品を書くことがほとんどです。一方、スカラシップ コンサートは自分自身で編成も演奏も決めることができるといことで、自分がいま本当に書きたい音を書けるという点が非常に嬉しかったです。

— RMF奨学生を目指している方へのメッセージをお願いします。

☆響さん  
RMF奨学金の選考審査では、面接において作品を説明すること、言語化することが求められましたが、それはどんな場面でも必要な力になってきます。採択されればもちろんベストですが、審査を受ける過程で身に着く力も大きいと思います。

☆航さん  
落ちたらどうしようということよりも、応募してみても自分はこういう作曲家・音楽家でありたいと伝えてみるだけでも意味があると思います。応募するプロセスにおいて志望動機や目標を考えることで、自身と向き合う良い機会になりますし、その挑戦は結果に関わらず、成長するきっかけを与えてくれると思います。



向井 航

(2019, 2020年度奨学生)

作曲家、パフォーマー。東京藝術大学音楽学部作曲科を首席卒業後、渡独。受賞歴に第33回芥川也寸志サントリー作曲賞、安宅賞、クオアチア国際作曲コンクール優勝、メンデルスゾーン全音楽大学コンクール独逸邦大統領賞、日本音楽コンクール作曲部門第2位及び谷岩賞など。2019年、20年ロームミュージックファンデーション奨学生としてドイツ・マンハイム音楽舞台芸術大学修士課程に在籍、最優秀で卒業。現在アントン・ブルクナー私立大学およびベルン芸術大学博士課程に在籍中。

## ロームミュージックファンデーション奨学金概要 (2024年度奨学生募集時点)

- 応募資格: 国内外の教育機関で音楽を学ぶ方、あるいは入学を予定している方 (年齢不問)
- 給付金額: 月額30万円 (返済不要) ■ 給付期間: 原則1年間 (更新は一度まで可)



Rohm Music  
Foundation   
ロームミュージックファンデーション



ローム ミュージック フレンズ No.17

—ロームミュージックファンデーションの音楽文化支援情報誌—

発行 2024年3月

企画・発行：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

〒615-0046 京都市右京区西院西満崎町44

TEL(075)311-7710 FAX(075)311-0089

<https://micro.rohm.com/jp/rmf/>

協 賛： **ローム株式会社**

この情報誌に掲載の写真・文章の無断転載を禁じます。